

ふくいのかき

福井県生活協同組合連合会

〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地（県民生協本部センター内）

TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2015年11月6日 No.109

<http://www.fukui.coop/kenren/>

福井県生協連合会

検索



Let's clean the coast!

第19回

海岸クリーンアップ

ボランティア活動報告

鷹巣会場

9月5日(土) 9:00~

参加者 216名
ゴミ袋 約70袋

三国会場

9月12日(土) 9:00~

参加者 158名
ゴミ袋 約120袋

福井県生協連合会では、「ナホトカ号重油流出事故」が起きた1997年から毎年、事故を忘れない為の取り組みとして、海岸クリーンアップ活動を実施しています。

第19回を迎えた今年は、2会場で総勢374名の方が海岸清掃の活動にご参加くださいました。福井市野球連盟の学童野球チームの児童達や企業の社会貢献活動として企業仲間に参加される方たち、福井県ボランティアセンターの「サマーボランティア体験」として申し込まれて、当日は家族や友人とともに参加される方など、毎年少しずつボランティアの輪が広がってきています。

タバコの吸殻や使用済の花火、空き缶やペットボトル、発泡スチロールやプラスチックの破片、木切れや流木など約190袋分のごみを回収しました。今年度は強風の影響もあり、大きな流木やたくさんのわら、木切れが海岸に流れ着いていました。バーベキュー後のゴミの放置なども目立ちました。

両日とも、開始時間前からたくさんの方にお集まりいただき、海岸だけでなく植え込みや駐車場までゴミの回収にご協力いただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

「生協ボランティア月間」が始まります。

2015年11月15日～2016年2月15日

福井県内生協ボランティア活動の一環として今年も「生協ボランティア月間」に取り組みます。古切手、書き損じ葉書、外国コイン、ベルマークを集めますので、ご協力ください。集まった収集物は福井県ボランティアセンターなどを通じて、収集ボランティア団体からコレクターなどに売られて換金されます。売上金が福祉活動に活用されます。

お問い合わせは、福井県生協連合会 事務局まで。



「第57回 通常総代会」および 「全労済福井県本部 第6回 代表者会議」

2015年7月30日(木)、福井県国際交流会館において、「福井県労働者共済生活協同組合 第57回通常総代会」および「全労済福井県本部 第6回代表者会議」が開催され、すべての議案が原案どおり承認されました。



福井県労働者共済生活協同組合第57回 通常総代会

1. 2014年度 事業概況

(1) 加入状況 35,755件 253,444口
(2) 給付状況 1,865件 30,190,500円

2. 組合員数および組合員出資金額

(1) 組合員数 95,408人
(2) 出資金額 625,951,300円

全労済福井県本部 第6回代表者会議

2015年度活動計画について

火災共済・自然災害共済の制度改定を受け、「住まいの保障点検」を最重点とした生活保障設計運動を展開し、組合員とご家族の生活を守るお手伝いに力を入れてまいります。

2015年度の主な取り組み

- ◆住まいる共済(火災共済・自然災害共済)の浸透と拡大をめざした取り組み
- ◆新離退職者団体生命共済の活用を踏まえた団体生命共済の継続的取り組み
- ◆対面推進チャンネルでの積極的な商品提案による共済利用の深耕と拡大
- ◆共済代理店チャンネルにおける推進強化の取り組み

『安心してらせる地域づくりをめざして』をテーマに

第27回 近畿地区生協・行政 合同会議 報告

月日 **8月31日**(月)

会場 **京都市 京都平安ホテル**

近畿地区7府県(兵庫・大阪・京都・和歌山・奈良・滋賀・福井)で構成している近畿地区生協府県連協議会では、厚生労働省および各府県行政との懇談会を毎年開催しています。

特別報告では、奈良県内で高齢者福祉施設や保育園、配食サービスなどを展開している 社会福祉法人 協同福祉会 村城正 理事長より、『新しい地域支援事業と生協への期待～これからの地域に何が求められているか～』をテーマにお話いただきました。①高齢者福祉の視点から、これからの地域はどうなっていくのか ②「地域包括ケアシステム」とは何か ③新しい地域支援事業について などをわかりやすくご説明いただき、新しい地域支援事業の直面する課題と問題点や生協への期待についてお話をいただきました。

他に、5本の活動報告が行政や生協、適格消費者団体からあり、安心してらせる地域づくりのためにも、生協と行政の協力関係を深めることは重要であることを再確認できました。



福井県協同組合連絡会 視察研修 報告

月日 **10月7日**(水)

会場 **越前町漁業協同組合**

福井県協同組合連絡会は、福井県内5つの協同組合(JA福井県中央会、福井県経済連、福井県漁連、福井県森連、福井県生協連)が協同活動や情報交換を行いながら、社会的・経済的地位の向上と広く協同組合運動の発展を期することを目的としています。視察研修は5つの協同組合が毎年持ち回りで企画しており、今年は福井県漁業協同組合連合会の運営により、10月7日に開催されました。

まず、越前町漁業協同組合において「越前ガレイ」のブランド化の取り組みについてお話をいただきました。一時期、韓国の密漁で漁場が荒れ、漁獲量が減少したそうですが、海底の清掃と海底を耕すという驚きのアイデアでプランクトンや小エビが増え、赤ガレイも3倍に増えたそうです。そして、「神経絞め」という方法で鮮度を保ち、現在築地市場への出荷にも挑戦しています。

その後越前町小樟定置網組合の船に乗り、定置網を見学しました。お天気がよくても風があり、かなり船が揺れました。とてもハードな仕事ですが、海の資源を守りながら、多くの日本人に日本で水揚げされた魚を食べていただき、日本の漁業を守ろうとする姿が目には焼きつきました。

3.11 を忘れない

～地域再生に向けて～

時間の壁と向き合いながら進めるまちづくり

被災した市町では地域再生に向けた新たなまちづくりが進んでいます。どの地域も、人口減少問題を抱えるなか、個々の地勢や地域資源を活かした計画を策定し定住を呼びかけているのが特徴です。

津波で家屋の9割が被災した女川町は、山を切り取って高台に宅地を整備し、造成で出た約700万㎡の土を平地に盛って新たな市街地をつくっています。嵩上げた国道が防潮堤の役割を担い、中心部には役場や学校、病院、商店、観光施設などが集約。宅地をほぼ2キロ圏内の高台に分散配置することで、景観と安全、生活の利便性を確保しています。ことし3月には女川駅と女川温泉「ゆぽっぽ」の営業開始を機に、「まちびらき」を行ないました。

「まち」の様子がたびたび報道されることもあり、女川町は復興が早いと見られています。しかし復興の指標の一つである災害公営住宅完了戸数は「4年半、一生懸命取り組み続けてきてもまだ3割程度」と、我妻賢一さん(女川町復興推進課課長)は焦燥感をにじませます。山の掘削、土の運搬、盛土と一連の造成作業に

時間がかかるためですが、宅地の完成を待ちきれず「まち」を出ていく住民もいます。震災前は1万人強だった人口は現在約7,000人にまで減少しました。

高台移転や利便性の高い市街地づくりは住民に「希望を持っていただくためのもの」ですが、時間の壁が立ちはだかります。さらに「街並みだけでは定住してもらえない。そこに心がないと…」と我妻さんは言います。そこで、住民のなかから“まちの心をつくる”様々なリーダーが育っていくよう、女川町は「まち活」プロジェクトに取り組んでいます。また高台の住宅地では早い段階から「まちづくり」参加の機会を設け、コミュニティ形成を図っています。

「女川は面白いまちになると興味を持ってもらい、住民同士の絆が深まれば、人口流出にも少しは歯止めがきくのでは」と我妻さんは期待を口にします。

「まちづくり」も「人づくり」も一緒に就いたばかり。被災市町は時間の壁と向き合いながら、これからも厳しい道を歩いていかなければなりません。



▲商店街の建設工事が進む駅前プロムナード。湾左手には女川魚市場や水産加工団地が並ぶ。



▲我妻賢一さん。「12月には商店街が完成し、まちびらき第二弾を開催します。ぜひ女川町においでください。」



▲女川駅と一体型の交流施設、女川温泉ゆぽっぽ

平成27年度

8月30日(日) 8:30～11:30

福井県総合防災訓練に参加

訓練想定

台風の接近に伴う大雨により、8月30日午前8時に、小浜市に土砂災害警戒情報が発表された。その後、8時30分に若狭湾沖で地震が発生し、市沿岸に津波警報が発表された。市内では、大雨に伴う土砂崩れによる孤立集落が発生するとともに、土砂災害および津波による家屋の倒壊、火災、ライフラインの被害が発生した。

県庁内に県災害ボランティア本部が、小浜漁港に現地災害ボランティアセンターが設置され、生協連は県災害ボランティア本部に配属されて訓練に参加しました。

現地災害ボランティアセンターからの要請に基づき、スコップや一輪車、高圧洗浄機などの物資調達を、県壮年団連絡協議会とともに担当しました。マニュアルどおりではうまくいかないこともあり、その都度話し合いながら訓練しました。



冬季役職員学習会 予告

福井県生協連合会 創立40周年記念事業として、会員生協の健全な事業経営に資するため、日本生協連 浅田代表理事会長を講師にお招きし、『生協事業・活動運営に関する学習会』を役職員学習会の一環として開催します。

企画内容

日時 **11月25日(水) 15:00～16:30**
場所 **福井県教育センター 4F大ホール**
(福井市大手2丁目22-28)

講演テーマ 『日本の生協運動の到達点と未来への展望(仮称)』

講師: 浅田 克己氏
(日本生活協同組合連合会 代表理事会長)

参加対象 **会員生協
役員(非常勤役員含む)・職員
50人程度**

参加費 **無料**



会員生協の活動報告 & 予定案内



菅浜生協

生協祭り 盛大に開催

菅浜生協では、毎年夏の区行事である精来丸(精霊船)製作やフェスタ出店を8月15日に実施しており、当生協も積極的に参加しています。

また、今年初めての試みとして朝市を7月12日に実施しました。地元で採れる野菜(トマト、なすび、玉ねぎ、ピーマン、水菜他)を安く販売しましたが、午前中で完売することが出来ました。今回初めてのイベントなのでどうなるかと心配していましたが、最初は手ごたえが、沢山の地元のお客様が来られ、何よりお互いのコミュニケーションが図られたことが一番の喜びでした。これからも何度か実施して行きたいと考えています。

そして、9月12日地元美浜東小学校4年生25名で炭焼き体験を実施しました。最初は森林の大切さ、炭焼きの歴史、炭が出来るまでの過程について説明があり、その後のこぎりによる木の切断、炭材の窯入れ、出来た炭の箱入れを実施しましたが、

初めての体験で子供達も大喜びの体験学習でした。

それから、10月18日(日)に生協祭りを実施しました。出し物は餅つき、蕎麦打ち、衣料品、魚類、へしこ、野菜、手作りパン、焼きそば、焼イカ等の沢山の出店をしました。今年は天候にも恵まれ、区内外の大勢の人たちで賑わいました。お世話になった関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。



福井県医療生協

「大腸がん健診で早期発見早期治療を」

光陽生協クリニック放射線技師 藤岡 俊太

近年大腸がんは急増しており、診断数は男性で胃癌を抜き一位となり、女性は乳がんに次いで二位となっています。大腸がん発見のためにはまず、便潜血検査を行います。便潜血検査とは便に血液が付着していないか調べる検査です。陽性であれば癌の可能性があります、進行がんであっても約一割が陰性となってしまうたり、痔や生理からの出血と見分けがつかなくなったりします。また、大腸内視鏡検査は違和感や苦痛を伴う場合があります。「痔があるから」とか「検査がつかうそう」などと、早期発見のチャンスを逃してしまう患者様が少なからず存在します。

進行がんとなると、他臓器へ転移し5年生存率は約15%と極端に低下します。しかし、早期であれば5年生存率は90%を超え、その場で内視鏡的に切除することも可能です。

「検査はどうも」と躊躇しているみなさん、勇気を出して大腸がん検診(便潜血検査)を受けてください。早期発見早期治療して『大腸がんの征圧』を目指しましょう!

福井県民生協

農業生産スタート

福井県民生協ではこれまで、県内外の生産者と産直協議会を作り、「産直」事業を通じて、安全安心な農産物の供給を進めてきました。しかしTPPへの参加や農業の担い手不足、耕作放棄地の増大など、農業を巡る情勢は厳しいものがあります。

こうした背景をふまえ、さらに「安全で安心な農産物の提供」「持続可能で安定的な農業」「福井県の自給率向上と耕作放棄地の解消」を目指して、今年から自前での農業生産をスタートさせました。まずは6月から敦賀市沓見地区で「サツマイモ、白菜、大根、キャベツ」などの栽培を、東浦地区では伝統の「みかん」栽培を始めました。8月には鳥獣害よけの電柵の設置を職員ボランティアで行いました。10月より収穫が始まり、ハーツ各店舗で販売がスタートしました。ぜひご利用ください。

来年2016年には「農業法人」を設立し、坂井北部丘陵地を含めて農地の拡大を図り、他生協や生協組合員以外への供給、6次加工商品の製造・販売などに取り組み、地産地消の推進と福井県農業の活性化にお役立ちしていきます。



福井大学生協

松岡キャンパス(医学部) カフェテリアPLUM・ショップPLUMをリニューアルしました



松岡キャンパスで事業スタートをして8年が経過し、引き継いで使用させていただいていた施設が35年と老朽化していたこともあり、大学と共同で改修工事を実施しました。後期講義開始には間に合いませんでしたが、10月5日(月)にショップPLUM、10月14日(水)にカフェテリアPLUMがリニューアルオープンしました。

ショップでは売り場面積を拡大することができ、文具類の品揃えを本格的にスタートしました。カフェテリアPLUMは新調理システム、メニューサイネージシステムの本格導入を図りバリエーションの改善と席数の50席増加・レジ増設を行うことで混雑改善を目指しています。

組合員の皆様に支持される店づくり、食堂づくりを心掛けていきます。

